

授業科目	スタディースキル I				
担当者	境隆弘 (実務経験者)・相原一貴 (実務経験者)・津村宜秀 (実務経験者)			(オムニバス)	
実務経験者の概要	境 (理学療法士としての臨床経験があり、現在もスポーツ整形分野の病院に携わっている) 相原 (理学療法士としての臨床経験があり、現在も維持期の病院に携わっている) 津村 (急性期及び生活期病院での理学療法業務に従事しており、神経機能解剖学に基づく理学療法の検討を行っている)				
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

## ■ 内 容

大学における各科目の学習が円滑に進められるように、学習の計画や方法について実践を通じて学ぶ。グループ学習や実技を行い、基礎となる解剖学・生理学・運動学・評価学の理解を深める。

・境・相原・津村 (実務経験者) :

第9～13、19～26、28～30回の講義やそれに関する実技指導を担当する。

## ■ 到達目標

- ・学習習慣を身に着ける。
- ・基礎となる解剖学・生理学・運動学・評価学の理解を深める。
- ・理学療法士の役割、職域についての興味や関心、知識を深める。

## ■ 授業計画

- 第1回 大学での学びについて - ガイダンス -
- 第2回 基礎学力確認①
- 第3回 基礎学力確認②、授業ノート、ファイルの作成について
- 第4回 レポートの書き方、学習計画の作成
- 第5回 グループ学習：理学療法士の職域、役割について
- 第6回 生理学の復習①
- 第7回 生理学の復習②
- 第8回 生理学の復習③
- 第9回 運動器系の解剖学の復習①
- 第10回 運動器系の解剖学の復習②
- 第11回 運動器系の解剖学の復習③
- 第12回 運動器系の解剖学の復習④
- 第13回 運動器系の解剖学の復習⑤
- 第14回 1年次の実習に向けて①
- 第15回 1年次の実習に向けて②
- 第16回 理学療法概論実習の振り返り
- 第17回 生理学・運動器系の解剖学の総復習①
- 第18回 生理学・運動器系の解剖学の総復習②
- 第19回 運動学の復習①
- 第20回 運動学の復習②
- 第21回 神経系の解剖学の復習①
- 第22回 神経系の解剖学の復習②
- 第23回 神経系の解剖学の復習③
- 第24回 神経系の解剖学総復習①
- 第25回 神経系の解剖学総復習②
- 第26回 理学療法評価学の復習①
- 第27回 年末および年度末に向けての学習計画
- 第28回 理学療法評価学の復習②

第29回 理学療法評価学の復習③

第30回 理学療法評価学の復習④

## ■ 評価方法

講義内提出物（レポート、自主学習スケジュール等）50%、講義内テストで50%とする。

講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

・授業内で取り扱う内容は、事前に学習している内容である。そのため授業内で取り扱った内容は、必ず教科書で読み返し復習することを推奨する。

・学習習慣をつけるため、提示された課題以外に自主的な調べ学習を行うことを強く推奨する。

## ■ 教科書

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯定和 訳

出版社：南江堂

書名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学

著者名：岡田隆夫、長岡正範

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣をつけてください。

## ■ 講義受講にあたって